

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>鍛え、褒め、多様な学びの中で生徒の可能性を最大限に伸ばし、「自走力」を育成する学校 独自の体系的なキャリア教育「ネオ・サザンクロスプラン」等の実践を通して、本質を極められる確かな学力と自他を尊重する精神を持ち、自ら考え仲間とともに学びながら時代の変化に柔軟に適應できる、たくましい人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも意欲的・主体的に取り組み、自己実現を目指す生徒の育成 ・変化に柔軟に適應し、豊かな人生を自ら切り拓く力の育成 ・自己肯定感を高め、自他ともに価値ある存在として認めることのできる人権尊重の精神の涵養
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働した探究的な学びによる「思考力・判断力・表現力」の育成 ・基礎・基本の徹底により「知識・技能」を確実に習得させる指導 ・ICTや少人数制を利用したきめ細やかな個別最適な学びの提供
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現に向け、たゆみなく真摯に努力できる生徒 ・文武両道に励み、失敗を怖れず、何事にも果敢に挑戦する生徒 ・本校での学びをとおして、将来の夢を見つけない生徒

学校運営計画(4月)			
学校運営方針	<p>歴史と伝統、南高PRIDEを継承し、凡事徹底を掲げ、個別最適化された学びの実現を目指し、社会において活躍できる生徒の育成を推進する。また、主体的に進路を選択する力、粘り強く取り組む力、社会の変化に柔軟に対応できる力を培い、信頼度の高い学校文化を構築する。</p>		評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>学校行事については、生徒の主体的・協働的な学びを大切にされた教育活動を実践することができた。本校の強みである「高みを目指し、自己実現を図る姿勢の育成」により、個々の進路希望・選択に即した進路実績に結びつけることができた。 地域に根差した、必要とされる学校づくりのために教育課程や教務内規の改定を行う等カリキュラム・マネジメントを推進した。また、1単位45分授業に改変し、放課後を有意義に活用できるよう環境整備を行い、生徒の主体的な学習や授業の学び直しを促した。教員にとっても働き方改革の一助となり、個々の生徒にゆとりをもって指導・支援ができるようになった。 本年度は校内研修をさらに充実させ、ICT活用能力の向上および個別最適化された学びを推進することにより、個々の可能性を最大限に引き出せるよう努めていかなければならない。また、社会や時代の変化に伴い、校則の見直しを行うとともに、HPやSNS、PR紙の活用を積極的に行い、本校の教育活動を組織的に適宜発信していく必要がある。</p>	<p>凡事徹底を日々の教育活動の中で積み上げていくことにより全人的な成長を促し、互いの良さや可能性を認めあえる人権尊重の精神の寛容を図る。 様々な体験活動や他者と協働した探究的な学びの機会を設定し「思考力・判断力・表現力および学びに向かう力」を高める。 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学びに取り組む。 個別最適化された学びを提供するために、1人1台端末を有効に活用するとともに教職員のICT活用能力をさらに高める。 教師力の向上を図り「チーム南高」としての学校力を高めるとともに学校のブランド化を図り生徒・保護者の期待に応え地域に愛される学校を目指す。 教育活動全体を対象とした戦略的広報活動を推進し、生徒募集につなげる。</p>	<p>全教育活動を通じ個人が大切にされた環境を作り(生徒への丁寧な呼称・言葉遣い、校内の掲示物、清掃状況等)、自尊感情の育成と将来への展望が持てる人権教育を推進する。 安易な欠席遅刻を無くし、学習に向かう環境づくりを推進する。(出席率98%以上) 研修をとおしてクロームブックやICT等の活用能力を高め、個別最適化された学びを目指す。(研修年3回)</p>	<p>A</p>
<p>新しい視点を取り入れた研究授業と教科科目横断型授業を行う。(各教科1回) 総合的な探究の時間等を活用し、大学や企業等と積極的に連携し探究的な学びを実践する。</p>			
<p>担任の進路面談(年3回)による個に応じた進路指導と小論文を含む徹底した大学問題研究により生徒の進路実現を支援する。(国公立合格80名以上(九大1名を含む)、難関私大) 教育活動全体を通じた前向きな生徒指導により、自律的に考え行動できる生徒を育てるとともに部活動を活性化させる。(加入率80%以上)</p>			
<p>HPやSNS、PR紙の活用及び学校説明会などをとおして本校の教育活動を組織的に適宜発信していく。(タイムリーなHPの更新、インスタグラム等の積極的な活用) アンケートを活用して各学校行事の改善を行うとともに、卒業時のアンケートで学校満足度90%以上を目指す。</p>			

		自己評価				学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
学習指導	主体的学習態度の育成	面談等を通して生徒一人ひとりの状況を把握し、個に応じた適切な指導を行うことにより、安易な遅刻欠席の改善に努め、学習に向かう環境作りを行う。出席率 1年生:99.5% 2年生99.0% 3年生99.0%を目指す。	・授業アンケート 生徒が日々の授業に対する意見・感想を教員に伝える機会になっている。	B	B	定期的な面談やライブレポートの活用により、生徒個人の日々の状況や、その状況の変化を捉えることができ、きめ細かな学習指導につなげることができた。 生徒をとりまく状況が多様化・複雑化するなかで、職員の見守りや声かけがなされるなど、きめ細かな対応がなされている。今後もお願いしたい。	A	○学習面においては、生徒の状況に応じた丁寧な指導が行われている。学習サポートが必要な生徒には保護者を含めた個別面談等を通して、学習面だけでなく生活面についても助言がなされるなど、きめ細かな対応がなされている。今後もお願いしたい。 ○図書館については、蔵書の充実に加え、新刊導入やスタンプカードなどの工夫で利用促進に取り組んでいる。また、図書館の充実が学校選択の一因となっているとの声もあり、南高の強みともいえるポイントとなっている。	
		ライブレポートを有効活用することで、生徒の振り返り・学習活動につながる適切な指導を行い、生徒の自己管理能力を育成する。自宅学習時間(一日平均)1年:120分 2年:140分 3年:160分以上を目指す。		A					
	「図書館だより」や「新刊案内」の発行や朝読書週間などの取組、授業での図書館の活用により、本に親しみ態度を育成し、読書による思考力の伸長を図る。図書貸出冊数:7冊/人を目指す。	B							
	授業アンケートを年2回行い、年間指導計画で設定した目標や課題に沿った授業展開ができるように、積極的な授業改善を行う。	A							
授業改善による教科指導力の向上及び、カリキュラム・マネジメントの推進	生徒の「1人1台タブレット」を有効活用し、ICTを利用した「個別最適な学び」や、「協働的な学び」を推進する。	より良い授業の実施のために、観点別評価による学習評価を行い、授業改善につなげていく。また、評価方法の検証を行い、課題を発見することで、より良い評価方法へのブラッシュアップを図る。	B	B	授業アンケートにより、日々の授業を見直すきっかけが作れている。時期や回数を見直すことで、リアルタイムに授業にフィードバックできればさらに効果的な取組になると考えられる。個別最適な学びを実践していくために、研修部と連携して、タブレット端末の活用例などの研修を定期的に計画する必要がある。				
	1 広報業務	中学生や保護者及び地域に本校の魅力を効果的に伝えるために、学校案内パンフレット・ポスター、チラシ等の広報物を作成し、中学校等に配布する。	・中学生進路相談事業事後アンケート	A	A	・中学生及びその保護者に本校の教育活動を具体的に知っていただくために、学校案内パンフレット及び定期広報誌『南風』について生徒の活動を多方面からアピールするものを作成する。 ・各広報物の作成について、各部署に加え、部活動やPTA、同窓会の協力も仰ぎながら作業を実施する。 ・次年度の各行事等の準備を計画的に取り組み、更なる内容の充実にも努める。 ・PTA活動における新理事の募集について、本校での活動内容を事前に丁寧に説明することで、募集に応じただけのように努める。	A	○SNSを活用した情報発信により、学校の様子が分かりやすく伝わり、インスタグラムが学校選びの参考として受験生や保護者、その関係者にも広く情報発信できている。こうした取組により、学校の魅力が広く伝わっている様子がうかがえる。 ○地域のイベント、大学生との交流などを通して、生徒が地域と関わる機会が設けられている。こうした取組が、多様な価値観に触れる機会となり、生徒の成長につながっていると感ずる。	
	2 庶務業務	校内行事の円滑な実施と運営		B					
3 PTA業務と職員福利厚生業務	各行事等の細目の職員への周知徹底を図るため、2ヶ月分行事予定表を毎月中旬までに作成し配布する。	A							
生徒指導	基本的な生活習慣を確立と社会規範・校則遵守の精神の涵養	PTA活動を積極的に推進するために、PTA総会、総務会(年4回程度実施)、理事会(総務会後)、PTA諸行事の実施を的確に調整する。	・「学校生活アンケート」 ・「いじめアンケート」 生徒の悩みや困りごとを早期に発見し、対応することができた。 ・「学校行事におけるアンケート」 どの学校行事においても生徒主体で行うことができた。今年度のアンケート結果を踏まえ、次年度は更に工夫・検討していきたい。	A	B	現状の校則では、「8:00までに校門を通過」とあるが、多くの生徒が8:00までに教室へ入っている。その為、「8:00までに着席」することを推奨し、朝テスト開始までの10分間を静かに学習することで、落ち着いた雰囲気での授業を受けることができるように教務部と連携して調整していきたい。 校則改訂については、今年度は学校行事におけるスマートフォンの使用について、条件付き(時間と場所を限定して)で使用できるように生徒の意見も取り入れながら取り組んだ。今年度の取組の評価・分析を行い、今後も生徒の意見を取り入れながら、定期的に校則を見直ししていく。また、ルールについて教員間で十分に共有が図られていない点もあったため、先生方との認識のずれがなくなくなるよう、周知を十分にしていきたい。	A	○登校時に校長先生をはじめ先生方が校門や昇降口に立ち、生徒の見守りや声かけを行っている。日常の中で生徒一人ひとりに寄り添った関わりが大切にされていると感ずる。こうした取組が生徒の安心感につながっており、落ち着いた校風づくりにもつながっていると感じる。 ○生徒の声を聞きながら、生徒とともに学校を作っていく姿勢を今後も大切にしていきたい。	
		PTA活動の積極的な推進と職員福利厚生の充実		親和会会計を適切に実施し、衛生的な職員室環境を定期的に維持する。					A
	特別活動や部活動をととした指導による、愛校心や帰属意識の向上	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に対する全職員・生徒の意識の高揚を図る。また、問題が発生したときには速やかに対応にあたる。また、Google Formsを活用してアンケートを行い、統計分析を行う。		「自走力」の育成を図り、生活指導を徹底する。また、校則等のルールについては、生徒、保護者の意見を反映して常に見直しを行い、その上でルールを守るよう指導し、規範意識を育成する。					B
		特別活動・部活動やボランティア活動等の多様な他者との関わり合いをとおして、各自の果たすべき役割を認識し、逞しい人間力を育成する。(部活動加入率80%以上 県大会出場 運動部20以上 文化部5以上 九州大会3以上 全国大会2以上)		生徒が主体的に取り組めるよう、昨年度の反省や生徒のアンケート内容を学校行事に反映させる。そして生徒に主体で行っている意識を持たせることで、達成感を味わわせ、南高生としての帰属意識を高める。					B
	友人と協力し互いの良さを発揮できる人権尊重の精神を育む。また、様々な学校での活動をととして、社会に通用する生徒の創造力向上を図る。		A						

保健安全指導	ワンヘルスに基づく健康管理	「福岡県ワンヘルス推進基本条例」に基づき、ワンヘルスの考え方を職員が理解した上で、感染症に関する理解を深め、生徒全員がより良い学校生活を送り、自主的に行動できるよう健康管理を徹底させる。 保健室利用状況を関係職員で情報共有する。保健委員会が毎月1回発行する保健だより等により、心身の健康に関する意識を高める。また生徒が「保健だより」を作成することで生徒の意識を高める。(保健だより定期的発行年間10回以上)	校内美化点検等において、美化委員にアンケートを実施し、美化意識の向上を確認した。	B	A	A	ワンヘルスに関しての指導は、保健の授業に依存しすぎているように感じた。指導の見直し、検討を行う。 保健・美化委員会活動は、年々充実し、生徒自身が行動できるようになってきている。保健だよりは、生徒主導で年間10回の発行ができた。その内容については、充実したものになるよう指導したい。環境美化に関しては、おおむねできているが、より生徒が主体的に活動できるように、自ら進んで環境衛生について関心を持つような指導を心掛けた。 生徒支援に関しては、関係職員と連携が取れ充実した支援の方向性を考えることができた。引き続き生徒支援に関しては、チーム小倉南として、学校全体で考えていきたい。	A	○スクールカウンセラーについては、懇談会に合わせて面談の機会が設けられるなど、利用しやすい工夫がなされている。また、教職員間の連携がよく取れており、「チーム小倉南」として生徒の指導・支援につながっていると感じる。	
	安全管理及び環境美化や環境衛生に関する意識の向上	教員と生徒に対して各区域における清掃マニュアルを作成し、初期指導を実施することにより日々の清掃活動の充実を計り、掃除監督を徹底し、校内美化意識の向上とともに、愛校心の向上を図る。 美化委員会・保健委員会の活動をととして、環境衛生に関わり、美化・保健意識を向上させる。定例の美化委員会・保健委員会を実施し、活動を活性化させる。(月1回の定例委員会)保健委員による、手洗いの液体洗剤の点検補充活動を通じて、感染症対策の充実を図る。各々の行事前に美化点検活動を行い、校内環境の向上を意識させる。		B						A
	教育相談活動の推進と生徒支援活動の充実	生徒支援にかかわる情報を、関係職員で共有する。必要に応じて、スクールカウンセラー(SC)や専門機関等との連携を図る。また、気になる生徒については関係職員で会議を実施し、情報を共有する。(配慮を要する生徒の情報交換会年2回以上) 特別支援の必要な生徒に関して、保護者、スクールカウンセラー(SC)、専門機関等との連携を推進し生徒支援を充実させる。個別の教育支援計画を作成し、支援の方向性を共通理解する。(診断生徒の支援計画作成率100%)		A						A
				A						
進路指導 ・ネオサザンクロスプラン	・進路意識の確立 生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の早期確立	年に1回はオープンキャンパスに参加し、進路について自ら学び自ら考える生徒の育成を図る。	第3学年選択課外 179名(82%) 共通テスト出願 185名(88%) 進路結果(3月20日現在) 国公立大学内定者 78名 (総合型9名)(推薦型45名) 私立大学合格者 約160名	B	A	A	校外での進路関係行事について ・1年生の大学訪問(旧ウィンタースクール) 感染症対策のため時期を12月から9月に変更しオータムスクールとして実施。感染症の影響も受けずに全員が出席することができ、大学側からも充実した内容を準備していただき「大学を知るよい機会」となった。 ・ゆめみらいワーク 内容はキッズニアとの連携など年々充実され、来年度はインターシップも計画されている。生徒にも好評で希望進路選択についての貴重な体験であった。来年度以降も参加予定である。 ・選択課外について 教科情報など教科・科目数の増加や、受験科目のアラカルト方式の増加に対応するための対策を検討する。	A	○1年生の段階からオープンキャンパス等の大学を知る・職業を知る機会が設けられており、進路について考えるきっかけづくりがなされていると感じる。その後の主体的な参加につながっている点は、早期からの意識づけとして有効な取組であると感ずる。 ○卒業生を講師として招き、職業について話を聞く機会が設けられており、このような取組によって生徒の進路意識が高まり、将来に向けて主体的に考える力が育てられている。	
		生徒対象の進路講演会を年1回以上開き、自己実現を図る姿勢を育成する。		A						
		卒業生の学びや進路実績、進路関係のスケジュールを把握することで、自ら情報収集をする生徒を育成する。		B						
		ネオ・サザンクロスプランを軸として、夏期・秋期・冬期に体験的なキャリア教育活動や集団学習会・補講授業を実施する。		B						
		大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を各学年適宜実施する。		A						
		(第3学年)保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。		A						
修学・進路支援	校内外での支援の連携	経済的・個別的な課題を抱えた生徒の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。生徒の修学困難な理由を学年と連携して早期に把握し、その課題解決のための手段を講じる。	校内人権学習の実施ごとに生徒にアンケートを実施し、生徒の人権意識の向上を図るとともに、来年度以降の人権学習の更なる内容の深化のために有効に活用することができた。	B	A	A	校内人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、生徒の情報交換を行い、その支援につなげることができた。今後もこの取組を通じて生徒の修学保障に繋げていきたい。また、民間就職や公務員希望者に対しても、修学支援教員との連携により進路実現を進めることができた。	A	奨学金に関する説明会を土曜日の授業参観後に開催するなど、保護者が参加しやすい工夫がなされている。内容も分かりやすく、申請時期や手続きについて理解を深める機会となっている。	
	外部機関との連携	就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。外部機関との連携を通じて適正な選考が行われるように就学・就労支援に取り組む。生徒に還元できる情報を収集する。		A						
	家庭状況の理解・把握 事務室と連携	日本学生支援機構など奨学金の情報を、効果的に活用できるように取り組む。支援金や給付金については事務室と連携して確実に取り組む。		A						
職員研修	教師力の向上を図るための校内研修の充実	関係部署との調整を行い、年間8回以上の校内研修の実施を目指す。また、若年教員研修を充実させ、活躍できる若年教員を育成する。	・授業アンケート 生徒が日々の授業に対する意見・感想を教員に伝える機会になっている。	A	A	A	若年教員研修や教育実習など、先生方の協力により充実したものとなった。若年教員研修は本年度で終了ではないので、様々な学校行事をとおして資質向上につなげたい。 本年度もデジタル版として、紀要南薫を作成中である。紀要南薫は、本校の各学年の流れがよくわかるものとなっているため、今後の教育活動に活かせるものとしていきたい。	A	○授業アンケートが実施されており、生徒の声をともて授業改善に取り組まれている様子が見られる。	
	教育実習生の指導	関係部署との調整を図り、充実した教育実習を実施し、将来の後継者育成を目指す。		A						
	将来につなげるための研修 紀要の作成	校内外の研修や研究活動の成果を年度末に研究紀要「紀要南薫」にまとめ、今後の教育活動に生かす。		B						
教育の情報化	ICT機器利用促進のための 研修会やマニュアル作成	統合型校務支援システムへのスムーズな運用・電子黒板や生徒用タブレット端末の効果的な活用、その他教育の情報化の推進を目指し、研修会の実施やマニュアル作成を3件以上実施する。	・学習者用タブレット端末活用調査	B	A	A	・ホームページやInstagram等のSNSの更新を行い、本校の魅力を効果的に発信することを継続したい。 ・生成AIなどを活用し、主体的に学ぶ生徒を育成する体制の構築を図る機会をつくれるよう、職員へのICT研修を計画し教育活動の充実につなげたい。 ・事務部と連携し、Wi-Fiが届かない部屋の改善や、古いICT機器の更新を推進する必要がある。	A	○ICTを活用した教育の情報化は着実に進んでいると感じる。スタディサプリなどの教材を活用できる環境が整えられている一方で、保護者の立場からは具体的な取組が見えにくい面もあるが、SNS等を通じて学校の様子が発信されており、理解につながっている。	
	ICT環境の整備・改善	校内のネットワーク環境の効果的な活用を目指し、不具合の改善や、古い機器の更新など校内で実施できる整備や改善を年間10件以上実施する。		A						
	中学生・保護者・地域・卒業生への情報発信	学校ホームページを月6回以上の頻度で更新し、情報発信を行う。Instagramへの投稿を月6回以上行い、教育活動の発信を行う。		A						

1学年指導	授業規律の確立と基礎学力の定着	黙想の励行、チャイムからチャイムまでの授業を実施することで授業規律を確立していく。また、出席率を99.5%以上を目標とする。	・学校生活アンケート ・ライフレポート ・進路希望調査	A	A	素直で真面目な生徒が多く、出席率も高い。課題や朝テストについても概ねしっかり取り組んでいる。一方で稚拙な言動が目立つ場面もある。学校生活のあらゆる場面で深く考え、行動できる状況をつくりたい。挨拶をはじめ、学校生活を送るうえで生活習慣も身につけてきたが、学期が進むにつれ意識の低さが見える状況もある。丁寧に個人に指導しながら、学年全体が「克己」できる雰囲気や教員と生徒をつくりたい。そのためにもリーダー的役割を果たせる生徒の育成が不可欠である。外部試験は、上位層の少なさが目立つ。各生徒が希望進路を実現できるべく、授業、課題で基礎学力を定着させ、行事、外部イベント等でより深い思考とより積極的な試行ができるよう仕掛けを講じる。学年全体で、生徒の成長を促すべく今後も情報を共有し、連携を密にして指導にあたる。	A	〇1年生においては、出席率の高さや学校生活の安定が見られることから、安心して学び続けることができる環境が整っていることがうかがえる。今後も安心・安全な学校づくりを基盤として、子どもたちを指導していただきたい。
		生徒の実態に応じた「わかる授業」、主体的・対話的な授業実践をするとともに朝テスト等を活用して個々の基礎学力の定着と向上を図る。		A				
	基本的な生活習慣の定着	時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導等を通して規範意識を身につけさせる。家庭学習時間は、1日平均120分以上を目標とする。		A				
		3年間を見据えた指導を展開していく。特に学年当初の初期指導を通して集団としての社会性を養う。		B				
	将来を見据えた進路選択	キャリア教育課と連携を図り、サマースクールやウィンタースクール等を通してより高みを目指した進路希望を持たせられるよう指導する。また、1月進研模試総合3教科のGTZのA3 45名以上、B1 90名以上を目標にする。		C	B			
		教育課程説明会や進路講演会、学年通信等を活用して生徒・保護者に適切な進路選択のための情報提供を行う。		A				
生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	教育活動全般を通して人権意識の高揚につとめ、適切な人間関係の構築を図る。	A	A					
2学年指導	習熟度別クラス編成による学力等の育成	自ら学習する意欲を高めることで、家庭学習時間の確保に努めさせる。	・学校生活アンケート ・ライフレポート ・進路希望調査	A	A	・自分の進路実現を含め、何かと安易に考えている生徒もおり、自分のおかれている環境や周囲の状況を踏まえて理想と現実のギャップを埋めるために努力する姿勢を育んでいけるように指導していかなければならない。 ・学習面のみならず、学校行事への取組など学校生活全般を通して二極分化の傾向が強まっているため、その点を修正していくことが求められる。 ・リーダー待望論は依然として強い。体育大会などの学校行事や学年行事を通して指導はしてきているが、さらなる成長を期待したい。例年であれば、1月の修学旅行で勢いをつけて3年1学期より大きく進化するというイメージだが、今年度はその時期が前倒しとなり3学期の指導が手薄になったと感じている。 ・学習面においては、授業の復習や模試の復習を徹底して指導していくことで基礎・基本の定着を図り、自分の力で学習に向かえる受験生へと変わっていきけるような指導が必要である。 ・年々年内入試の希望者が多くなっているのが現状だが、推薦イコール合格ではないということを理解させるとともに、推薦されるということの重みを考えて行動できるような指導していかなければならない。	A	〇2年生においては、進路を見据えた意識づけや主体性の育成に向けた指導が積極的に行われていると感じる。今後も生徒それぞれの良さや得意な分野を生かしながら活躍の機会が広がり、一人ひとりの成長につながっていくよう指導していただきたい。
		習熟度別授業により生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上を図る。		A				
	学校の中核としての人材の育成	学年としてリーダーシップを発揮できるようフォロワーの指導を強化する。		B	B			
		定期的な学年集会で3年次に活躍できるリーダーを育成する。		B				
	具体的進路目標の設定	進路部と連携し、適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。		A	A			
		各学期に進路面談を行い、適切な進路選択と進路目標の早期設定を促す。		A				
模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。		B						
生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	学校生活全般を通して、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚につとめる。	A	A					

3学年指導	進路別クラス編成による学力の伸長	希望進路に応じた授業展開を工夫していくとともに、適切に課題を課していくことで、1日平均160分以上の学習時間を確保させる。	・学校生活アンケート ・ライフレポート ・進路希望調査	B	A	A	・3年生になり、想定以上に進路意識は向上した。このことは、総合型・推薦型選抜における合格実績に表れた。しかし一方で、一般選抜に向けては、学習意欲は高いものの、受験勉強への本格的な取組が遅れたことが大きな課題となった。早期からの意識付けと、学習習慣の定着が今後の課題である。 ・学校行事では、創立120周年記念体育大会をメディアドームで開催するという初の試みに対し、実行委員を中心とした3年生が団結力を発揮し成功に導いた。今後は、1・2年次からの行事の運動性をより意識させることで、更なる成長が期待できる。 ・生活指導での今後の課題として、進路実現の先にある「自立した生活」を見据え、社会の情勢や生徒の実態を考慮しつつも、困難を一つずつ乗り越えさせる指導が必要である。学習面・生活面において、困難に立ち向かう精神面のたくましさをはかりに育成するかが、今後の重要な課題となる。	A	○3年生においては、生徒一人ひとりの進路実現に向けた丁寧な支援が行われていると感じる。面談や小論文指導、課外など進路に関する支援体制が整っており、保護者としても安心感がある。また、大学との連携や情報収集など、教職員のきめ細かな取組が進路実現につながっていると感じる。今後も継続した指導をお願いしたい。
		授業や課題配信等にICTを活用し、効率的に学力の定着を図り、生徒が自らの限界突破に挑戦できるような環境づくりを進める。		A					
	自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成	学校行事をとおしてリーダーとフォロワーの役割を理解させ、学年として学校全体を牽引できるリーダーシップを発揮できるよう指導する。		A					
		「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての矜持をもたせる。		B					
	進路目標の実現	進路説明会や学年通信等で保護者にも適切な進路情報を提供し、学校・生徒・保護者が一体となった指導で国公立大学進学率40%以上をめざす。		B					
		年3回以上の個別面談の実施で進路意識の高揚を図る。学校行事や小論文指導等で総合型選抜や学校推薦型選抜に対応できる力を育成する。		A					
	生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	卒業後も置かれた状況の中で自ら考え行動できる人材となれるよう、教育活動全般をとおした指導を継続する。		B					
		差別やいじめを許さない環境を整え、生徒の人権意識高揚に努める。特に課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。		A					
事務部	1 適正な事務処理	職員間の相互チェックを徹底し、適正な事務処理に努める。監査等での指摘ゼロ	B	A	A	・支払い遅延等の事務誤りはあったが、条例・規則等に基づいて適正な事務処理を心掛けていたため、目標であった監査等での指摘はなかった。次年度は引き続き大量業務を計画的・効率的に誤りがないように実施する。 ・説得力のある予算要求資料により、長年の懸案であった多機能電話交換工事予算を確保した。	A	○PTA会費等を会計資料が分かりやすく整理されており、総会における報告も適切に行われていることから、信頼性の高い運営がなされていると感じる。	
	2 予算の有効活用	本校の学校運営方針に沿った、効果的・効率的な予算執行	A						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上を図るために、確認テストや単元テスト等を充実させ、日々の授業での到達度等を確認しながら教科指導を行う。 ・学校の魅力や特色を理解していただき、学校への信頼感・安心感を向上させるとともに受験生とその保護者に対しての学校選びの判断材料としていただくために、学校ホームページやインスタグラムでの本校教育活動の発信を充実させる。 ・校則の改定については、社会や時代の変化、近隣の学校の状況、生徒・保護者の意見等を踏まえて、引き続き見直しを図る。 ・いじめアンケートについては、これまで以上に迅速に対応できるように、アンケートの回収方法の見直し・工夫を図る。 ・教員の教科指導力向上・授業改善を促すため、リアテンドントやICT活用指導力を高める職員研修を充実させる。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
学習指導や進路支援、生徒指導においても、教職員が連携しながら生徒の成長を支える体制が整っており、学校全体としての教育力の高さが感じられる。120周年を経て、さらなる教育活動の充実を期待したい。	